

「教職概論」における授業改善の実際

霜川 正幸・村上 清文・鷹岡 亮・高橋 雅子・長谷川 裕・久保田 尚

The State of the Improvement of the Course of “Introduction about the teaching profession”

SHIMOKAWA Masayuki, MURAKAMI Kiyofumi, TAKAOKA Ryo,

TAKAHASHI Masako, HASEGAWA Yutaka, KUBOTA Takashi

(Received January 10, 2012)

キーワード：授業改善、学習主体、学びの共有、人材活用、組織連携

はじめに

かつて、寺子屋の素読用教材として活用されたとされる『実語教』に「人不学無智 無智為愚人」なる著名なくだりがある。また、学校現場では「教師教えて子ども学ばざれば教育にあらず（読み人知らず）」と語り継がれてきた。教育効果の向上には子どもの学習（授業）に対する姿勢、意欲が肝心とされ、教師は常に子どもの学びとの関わりの中で、自らの授業や学習指導を振り返り、悔い改めてきた。

一方で、これらの授業改善、学習改善は教師個人々の意識や力量によるところが大きく、その視点、方法や具体等を共有し、組織的な取り組みに拡大することをとおして、一人一人の子どもの学びを大切にすることが求められている。

塚本は「授業とは本来、一方通行の『教え』ではなく、学習者と教師との双方向のコミュニケーションによって成り立つ『学び』だ。授業の目的とは、これこれを教授したという授業者の達成感にあるのではなく、学習者が授業を通じて何を身につけ、どう変わったかにあるのだから、その理解ないし変容を随時、的確に把握する必要があるのは当然だろう。」と指摘する¹⁾。

筆者らは、「教職概論」講義運営チームとして、学生の学びの状況把握、判断、相応しい指導内容や方法の提供を年次的に進めているが、特に「教職概論」での指導を学部全体につなぐ取り組み、学ぶ主体である「学生の目線」を意識しての授業改善に取り組んできた。

本稿では、平成23年度を中心に「教職概論」における授業改善等の取り組みを整理し、報告する。

1. 「教職概論」の位置づけと目標

「教職概論」は1年前期に開講され、学部1年生の90%以上が受講する「教職に関する科目」である。「学校教育教員養成課程」と「実践臨床教育課程・健康科学教育課程・情報科学教育課程・総合文化教育課程（新課程）+新設の小学校教育コース」の2グループ編制で運営している。

入学直後に開講される、教職スタート科目としてある等のことから、本学部教員養成カリキュラムにおける位置づけと目標を次のように立てた。

(1) 本学部教員養成カリキュラムにおける「教職概論」の位置づけ

- ① 本学部における教員養成カリキュラムのスタート科目、教職入門科目
- ② 本学部における教員養成カリキュラムについて正しく理解させる科目
- ③ 教職、学校教育や教職キャリア形成にかかる基礎的知識等について理解させる科目

(2) 平成23年度「教職概論」の目標

- ① (学部は) 教職をめざす学生に、教職の魅力、やりがいや使命感等を理解させることをとおして、教

職への情熱や志向性、今後の学びに対する意欲を育む。

- ② (学部は) 教職をめざす学生に、本学部の教員養成カリキュラムを理解させることをとおして、様々な学びや活動に積極的に取り組もうとする態度を育てる。
- ③ (学部は) 教職をめざす学生に、教職や学校教育等についての基礎的知識、技能等を学ばせることをとおして、教員としての見方考え方や指導方法等について理解させる。

2. 「教職概論」における授業改善等の実際

2-1 授業のねらい、到達目標や授業構造を示し、評価規準を明らかにする

→ 学生は：何を、どこで、どのように学ぶかが分かり、目標行動をイメージできる

学生一人一人が「教職概論」を受講するにあたり、何を学ぶか、どのような流れで学ぶか、どのような学習方法、形態で学ぶかを理解し、授業終了時の自分自身の変容をいかにイメージするかは、学習意欲や授業に向かう姿勢に大いに影響が有ると考え、授業のねらい、授業の到達目標や授業構造(授業計画)等を「オリエンテーション(第1時)」において示すこととした。(図1)

平成23年度「教職概論」オリエンテーション		2011.4.14																																																																																											
<p>1 授業のねらい ~「教職概論」から「教職実践演習」に至る学びのスタート科目として~ ○教職や集団(組織)リーダーを目指す学生に対して</p> <p>1 教職の魅力、やりがいや使命感等を理解させ、教職等への情熱や志向性、今後の学びに対する意欲を育む。 2 教育学部の教員養成カリキュラムを理解させ、様々な学習や活動に積極的に取り組もうとする態度を育てる。 3 教職や学校教育等についての基礎的知識、技能等を理解させ、自己学習への課題意識を育む。</p>																																																																																													
<p>2 授業の到達目標</p> <p>1 教職の意義や基礎的知識等について理解し、説明できる。 2 教職等への意欲、情熱や積極的な構えをもつことができる。 3 教職等に就くための4年間の学習計画を立てることができる。</p>																																																																																													
<p>3 授業計画</p> <p>・授業時間(木曜日) 通常: 教員養成課程(小学校教育コースを除く)(10:20~11:50) 他教育課程+小学校教育コース (12:50~14:20)</p> <p>・授業会場 通常: 11番教室</p> <p>・授業プログラム 裏面「授業計画表」参照</p>																																																																																													
<p>4 講義担当者(運営プロジェクトスタッフ)</p> <p>・プロジェクト長 村上 清文(副学部長:教授)</p> <p>・スタッフ 久保田 尚(准教授)</p> <p>・スタッフ 霜川 正幸(准教授)</p> <p>・スタッフ 鷹岡 亮(准教授)</p> <p>・スタッフ 高橋 雅子(准教授)</p> <p>・スタッフ 長谷川 裕(准教授)</p>																																																																																													
<p>5 成績評価法</p> <p>・成績評価は、以下の方法で行うこととする。</p> <p>①毎回授業時に提出する「自己評価・学習整理カード」 (40%) ②グループ活動とそのまとめ発表 (20%) ③終了時に実施するレポート(記述式試験) (40%)</p>																																																																																													
<p>6 受講にあたって</p> <p>・教員養成カリキュラムのスタート科目であること、教員や集団(組織)リーダーを目指す者が学ぶ科目であること等を十分に理解し、規律ある真摯な態度で授業に臨むこと。</p> <p>①時間に厳しい学生(人)に 時間厳守 時間内集中 聞く・話す時間切替</p> <p>②自分に厳しい学生(人)に 真摯な態度 確実な提出物や課題への取組 学びの追求</p> <p>③他人に優しい学生(人)に 公共マナー 周囲への配慮 支えあいと高めあい</p> <p>・視力、聴力の関係や身体上の事由にかかる要望等がある人は遠慮無く申し出てください。</p> <p>・理由、事情にかかわらず、欠席・遅刻の多い者、教職を目指す者としての構えに欠けると判断された者の「単位修得」は認めません。</p> <p>・教職に関する学びや体験では、「マネジメント(PDCA)の意識」とその「蓄積」が必要です。様々な「学びの記録」や評価資料等は、きちんと蓄積する習慣をつけてください。</p> <p>●各教室(選修、コース)単位で「教職概論の教室代表」を決定しておいてください。</p>																																																																																													
<p>授業計画表(予定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日</th> <th>程</th> <th>授 業 概 要</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4月14日</td> <td></td> <td>【オリエンテーション】 ・教職概論とは ・指導講話 ・受講注意</td> <td>受講者アンケート実施</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4月21日</td> <td></td> <td>【教職・学校現場を知る①】 ・児童生徒から学生へ、学生から教員になる</td> <td>学校教育(学校、制度、教員等)の実際を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4月28日</td> <td></td> <td>【教職・学校現場を知る②】 ・教えられる人から、教える人になる</td> <td>学習指導、授業づくりの実際を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5月12日</td> <td></td> <td>【教職・学校現場を知る③】 ・伸ばされる人から、伸ばす人になる</td> <td>生徒指導、人間関係づくりの実際を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5月19日</td> <td></td> <td>【教職・学校現場を知る④】 ・守られる人から、守る人になる 【教職・学校現場を知る⑤】 ・学内外との連携へ、地域で育てる人になる</td> <td>学校運営・管理、研修等職務の実際を学ぶ 学校と関係機関の連携等の実際を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5月26日</td> <td></td> <td>【座談会に向けて グループ活動①】 ・招聘上の注意、グループづくり、役割分担</td> <td>途中よりグループ活動</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6月2日</td> <td></td> <td>【座談会に向けて グループ活動②】 ・テーマ、質問事項等の検討、打合せ等</td> <td>グループ活動</td> </tr> <tr> <td colspan="5">6月9日 授業日程の変更(6月11日に実施)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6月11日</td> <td></td> <td>【座談会①②: 教職の魅力や使命を考える】 ・現場の教員と教職の魅力や使命等について語り合う</td> <td>附属学校・園、公立学校教員、院在籍教員を交えた学習会</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> <p>③ 授業時間: 学校教員養成課程(小学校教育コースを除く)(9:00~12:00) 他教育課程、小学校教育コース(13:00~16:00)による集中開催とする。</p> </td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>6月16日</td> <td></td> <td>【教職への夢を語る グループ活動③】 ・発表会に向けた討議、準備等</td> <td>グループ活動</td> </tr> <tr> <td colspan="5">6月23日 集中開催(座談会6月11日)の振替日</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>6月30日</td> <td></td> <td>【教職への夢を語る プレゼンテーション】 ・グループの学習成果の発表</td> <td>グループ単位のプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>7月7日</td> <td></td> <td>【教育実習を知る グループ活動④】 ・指導講話 ・教育実習の仕組み ・先輩(教育実習経験者)と語る</td> <td>教育実習部長講話 先輩学生の発表、協議</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>7月14日</td> <td></td> <td>【教員養成の自主的な学びの場を知る】 ・教育学部の教員養成カリキュラム ・教員学部における体験的プログラム</td> <td>協働型体験活動参加の 先輩学生の発表、協議</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>7月21日</td> <td></td> <td>【教職概論からキャリア形成へ】 ・指導講話 ・「学びのロードマップ」作成</td> <td>先輩教員(卒業生、3年目)による指導講話</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>7月28日</td> <td></td> <td>【総括】 ・レポート課題実施</td> <td>受講者アンケート、授業評価実施</td> </tr> </tbody> </table>				回	日	程	授 業 概 要	備 考	1	4月14日		【オリエンテーション】 ・教職概論とは ・指導講話 ・受講注意	受講者アンケート実施	2	4月21日		【教職・学校現場を知る①】 ・児童生徒から学生へ、学生から教員になる	学校教育(学校、制度、教員等)の実際を学ぶ	3	4月28日		【教職・学校現場を知る②】 ・教えられる人から、教える人になる	学習指導、授業づくりの実際を学ぶ	4	5月12日		【教職・学校現場を知る③】 ・伸ばされる人から、伸ばす人になる	生徒指導、人間関係づくりの実際を学ぶ	5	5月19日		【教職・学校現場を知る④】 ・守られる人から、守る人になる 【教職・学校現場を知る⑤】 ・学内外との連携へ、地域で育てる人になる	学校運営・管理、研修等職務の実際を学ぶ 学校と関係機関の連携等の実際を学ぶ	6	5月26日		【座談会に向けて グループ活動①】 ・招聘上の注意、グループづくり、役割分担	途中よりグループ活動	7	6月2日		【座談会に向けて グループ活動②】 ・テーマ、質問事項等の検討、打合せ等	グループ活動	6月9日 授業日程の変更(6月11日に実施)					8	6月11日		【座談会①②: 教職の魅力や使命を考える】 ・現場の教員と教職の魅力や使命等について語り合う	附属学校・園、公立学校教員、院在籍教員を交えた学習会	<p>③ 授業時間: 学校教員養成課程(小学校教育コースを除く)(9:00~12:00) 他教育課程、小学校教育コース(13:00~16:00)による集中開催とする。</p>					10	6月16日		【教職への夢を語る グループ活動③】 ・発表会に向けた討議、準備等	グループ活動	6月23日 集中開催(座談会6月11日)の振替日					11	6月30日		【教職への夢を語る プレゼンテーション】 ・グループの学習成果の発表	グループ単位のプレゼンテーション	12	7月7日		【教育実習を知る グループ活動④】 ・指導講話 ・教育実習の仕組み ・先輩(教育実習経験者)と語る	教育実習部長講話 先輩学生の発表、協議	13	7月14日		【教員養成の自主的な学びの場を知る】 ・教育学部の教員養成カリキュラム ・教員学部における体験的プログラム	協働型体験活動参加の 先輩学生の発表、協議	14	7月21日		【教職概論からキャリア形成へ】 ・指導講話 ・「学びのロードマップ」作成	先輩教員(卒業生、3年目)による指導講話	15	7月28日		【総括】 ・レポート課題実施	受講者アンケート、授業評価実施
回	日	程	授 業 概 要	備 考																																																																																									
1	4月14日		【オリエンテーション】 ・教職概論とは ・指導講話 ・受講注意	受講者アンケート実施																																																																																									
2	4月21日		【教職・学校現場を知る①】 ・児童生徒から学生へ、学生から教員になる	学校教育(学校、制度、教員等)の実際を学ぶ																																																																																									
3	4月28日		【教職・学校現場を知る②】 ・教えられる人から、教える人になる	学習指導、授業づくりの実際を学ぶ																																																																																									
4	5月12日		【教職・学校現場を知る③】 ・伸ばされる人から、伸ばす人になる	生徒指導、人間関係づくりの実際を学ぶ																																																																																									
5	5月19日		【教職・学校現場を知る④】 ・守られる人から、守る人になる 【教職・学校現場を知る⑤】 ・学内外との連携へ、地域で育てる人になる	学校運営・管理、研修等職務の実際を学ぶ 学校と関係機関の連携等の実際を学ぶ																																																																																									
6	5月26日		【座談会に向けて グループ活動①】 ・招聘上の注意、グループづくり、役割分担	途中よりグループ活動																																																																																									
7	6月2日		【座談会に向けて グループ活動②】 ・テーマ、質問事項等の検討、打合せ等	グループ活動																																																																																									
6月9日 授業日程の変更(6月11日に実施)																																																																																													
8	6月11日		【座談会①②: 教職の魅力や使命を考える】 ・現場の教員と教職の魅力や使命等について語り合う	附属学校・園、公立学校教員、院在籍教員を交えた学習会																																																																																									
<p>③ 授業時間: 学校教員養成課程(小学校教育コースを除く)(9:00~12:00) 他教育課程、小学校教育コース(13:00~16:00)による集中開催とする。</p>																																																																																													
10	6月16日		【教職への夢を語る グループ活動③】 ・発表会に向けた討議、準備等	グループ活動																																																																																									
6月23日 集中開催(座談会6月11日)の振替日																																																																																													
11	6月30日		【教職への夢を語る プレゼンテーション】 ・グループの学習成果の発表	グループ単位のプレゼンテーション																																																																																									
12	7月7日		【教育実習を知る グループ活動④】 ・指導講話 ・教育実習の仕組み ・先輩(教育実習経験者)と語る	教育実習部長講話 先輩学生の発表、協議																																																																																									
13	7月14日		【教員養成の自主的な学びの場を知る】 ・教育学部の教員養成カリキュラム ・教員学部における体験的プログラム	協働型体験活動参加の 先輩学生の発表、協議																																																																																									
14	7月21日		【教職概論からキャリア形成へ】 ・指導講話 ・「学びのロードマップ」作成	先輩教員(卒業生、3年目)による指導講話																																																																																									
15	7月28日		【総括】 ・レポート課題実施	受講者アンケート、授業評価実施																																																																																									

図1「オリエンテーション資料」

(1) 授業のねらい

学生にとって、「教職概論」が今から「教職実践演習」に至る学びのスタート科目であることを意識させるとともに、教職以外のキャリアを選択する者も受講することから、「教職や集団(組織)リーダーを目指す学生に対して」として、学習に対する意欲や方向づけに働きかける文章にした。

○教職や集団(組織)リーダーを目指す学生に対して

- 1 教職の魅力、やりがいや使命感等を理解させ、教職等への情熱や志向性、今後の学びに対する意欲を育む。
- 2 教育学部の教員養成カリキュラムを理解させ、様々な学習や活動に積極的に取り組もうとする態度を育てる。
- 3 教職や学校教育等についての基礎的知識、技能等を理解させ、自己学習への課題意識を育む。

(2) 授業の到達目標

「教職概論」受講終了時における目標行動を3項目示した。

- 1 教職の意義や基礎的知識等について理解し、説明できる。
- 2 教職等への意欲、情熱や積極的な構え等をもつことができる。
- 3 教職等に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

3項目については、①これまで授業や様々な指導を受ける児童生徒の立場にあった学生の視点を、授業や指導を行う教師の立場に切り替えさせる視点、②教職の概要理解の上に教職の意義、魅力や課題を理解させ、教師としての心構えを考えさせる視点、③それらをもとに今後の教職等キャリア形成に向けた自己の在り方や課題を考えさせる視点の順で配列し、授業構成の根拠とした。

この3項目を、含有する内容を伴って評価規準とし、レポート課題項目に反映させた。

(3) 授業の構造（流れ、学習方法や形態）

授業は前項①～③により3段階で構成した。

①については、第2時～第5時の4単位時間を充て「教職・学校現場を知る」シリーズとして構成した。第2時は「児童生徒から学生へ、学生から教員になる」とし、学校、学校制度、教職員職階等について今までの教職員との出会いや学校を振り返る中で視点の切り替えを図った。第3時は「教えられる人から、教える人になる」とし、学習指導、授業づくりの実際を、第4時は「伸ばされる人から、伸ばす人になる」として、生徒指導、生活指導や子どもたちの人間関係等の実際について演習を取り入れながら考えさせた。第5時は「守られる人から、守る人になる」と「学校内外との連携へ、地域ぐるみで育てる人になる」の2内容で構成し、学校管理・運営、職務専念義務や研修等教職員サービスや学校内外の連携による教育の充実について実践事例発表等を取り入れ考えさせた。

②については、第6時～第11時の6単位時間を充て「現職教員と語る教職座談会」を中心に、準備、企画・運営、評価と意見発表までをグループ活動として実施した。教職座談会は2単位時間を配当し、週休日に実施した。現職教員との協議や問いかけには教職に対する学生個人の疑問や思いを整理する必要がある、また教職座談会後の意見発表には自らの考えを固める必要があり、それらが教職に対する意識を向上させた。

③については、第12時～第15時の4単位時間を充て「教職キャリアの形成に向けて」をテーマに、在学中の学びの仕組みと在り方、今後の教職等キャリアの歩み方を考えさせた。教員養成カリキュラムの全体像、教育実習や自主的教職体験活動の理解をとおして、今後の自らの学びや在り方を「学びのロードマップ」の形で整理させた。先輩教員による実践報告は教職に対する憧れや決意を高め、総括的指導講話を経て授業を終了した。

(4) 学生の反応、感想等（授業後の「自己評価・学習整理カード」の記載内容から）

学生からは、授業のねらいや到達目標が明確であること、3段階で視点、内容や学習方法、形態が変わる授業構成等について肯定的な感想が寄せられた。

「今まで高校生気分と大学生になったという喜びで一杯だったが、教師になるという夢を持って教育学部に来たことを思いだし、改めて今からスタートという気持ちになった。（オリエンテーションを終えて）」

「この授業の流れ、やり方が分かり見通しが立ってよかった。目指す目標やイメージが示されているのでそれが自分の目標になってやりやすい。（同）」

「授業が分かりやすい構成になっていて勉強しやすかった。学校や教師のことは知っているようで知らなかったし、教育実習やちゃぶ台プログラム（協働型教職体験プログラム）のことも分かったので、今からの学習や活動の見通しが立った。（最終授業を終えて）」

2-2 「教職概論」でのキャリア形成に向けた指導を学部ぐるみの支援につなぐ

→ 学生は：在学中や将来への決意、夢や願いを温かく、継続的、組織的に支援される

本学部生の50%は入学段階で「教職（教員）を強く希望」し、「希望する」を加えると70%超の学生が教職を希望する。逆に「希望しない」、「全く希望しない」学生は10%弱で推移し、全体として教職への指向性が高い²⁾。教職に就かない者も多くは教育や人材育成に関わる企業、機関や団体等で就業している。

「教職概論」では、この授業が学生の夢や保護者、教育行政等の期待に応える教職のスタート科目であり、

また入学生の90%以上が受講することをふまえ、各選修・コースで実施される「基礎セミナー」同様、以後の学業生活の充実や教職キャリアの形成に向けた「流れ、動きをつくる」ことを意識して取り組んでいる。

しかし、このことは「教職概論」の試みが各選修・コースにおける学生指導や支援と結びついて初めて意味を持つことであり、「教職概論」の取り組み、授業改善を学部ぐるみの支援につなぐことが求められる。

(1) 教職キャリア形成に向けた取り組みを各選修・コースにつなぐ

「教職概論」では、全ての講義演習を終えた段階で、学生に「学びのロードマップ」を作成させている。



図2「学びのロードマップ」

(1) 目的

受講生が、これまでの教職概論の授業、学部での授業や各自が取り組んでいる様々な活動等での学びをふまえて、今後、卒業（就職）までの目標（描く夢、希望）、課題（学年段階）や計画等の具体をイメージすることをとおして、自らの教職等のキャリア形成やこれからの学習、活動等への意欲を高める。

提出後は教員が確認し、学生の理解状況、教職等キャリア形成への思いや現状認識等を理解する資料として活用している。（図2）

「学びのロードマップ」は、学生が作成した物とコピー（1部）計2部を各選修・コース主任に返却しており、学生が作成した物は学生への返却を、コピーは各選修・コースでの保管を依頼している。その際、今後の各選修・コースでの学生指導、教職等キャリア形成に向けた相談、支援等に活用してもらうとともに、学生が具体的な目標・計画として自覚し、学びの深まりや高まりに応じて修正や変更を加え、「教職実践演習」に至る継続的な学びのポートフォリオ（教職カルテ）としての保管、活用する方向で指導を依頼している。依頼文書を示す。

(図3)

選修・コースからは、学生の希望や思いが具体的に見え活用できる、本年度の学生の状況や様子が分かる等の感想を得ており、「教職概論」の取り組みが学部ぐるみの支援につながるよう期待している。

2-3 学生の振り返り、評価や疑問、感想等を大切にし、学びの深化と共有化を図る

- 学生は：授業での疑問や授業に対する要望等が解決され、補充的・発展的な学びが保証される

「教職概論」では同時に130人を超える学生が受講する。3~4人掛の教室机を単位とした演習やワークを行ったり、教室を分けた分割授業等も行っているが、学生一人一人の状況に応じたきめ細かな指導ができていたとは言い難い。この困難に対する創意工夫に消極的な教員の姿は、学生の授業に対するモチベーションや、教員、学部授業に対する信頼感を下げかねない。

学生の単位時間の学習に対する自己評価、授業中にできなかった質問や伝えなかった感想や思い、授業に対する評価や要望等を的確につかみ、必要に応じてフィードバックすること、学生の疑問や意見を有効に生かし、補充的・発展的な学びとして共有させることが必要である。それは、学生の存在や学びに対する思いを肯定的、支持的に受け止め、共に学びあい、高めあう存在として認めるといった教員意思表示によって学生にも伝わっていく。

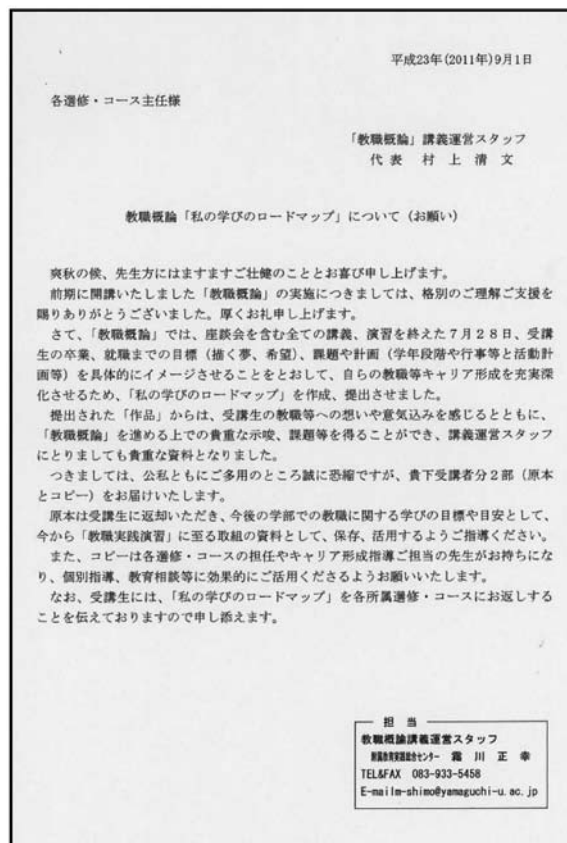


図3「指導依頼文書」

「教職概論」では、毎時間「自己評価・学習整理カード」により、授業の振り返り（自己評価）、感想、疑問点や教員への要望等を集約し、学生の振り返りや感想等を生かした授業改善を図ってきた。

(1) 自己評価ポイントの集計から授業を評価し改善に生かす

「自己評価・学習整理カード（図4）」の「学習の自己評価」欄では、自身の学びの様子を「4 十分にできた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 全くできなかった」の4段階で評価させた。毎回の評価項目は、「①授業、学習内容の理解度 ②自らの授業への取り組み、意欲 ③今後に向けた課題意識」である。

第1時～第15時について、各評価項目ごとの最高値・最低値（全受講者平均値）とその授業等について示す。

「①授業、学習内容の理解度」

最高値3.93（現職教員を招いた教職座談会）最低値3.45（オリエンテーション）

教職座談会、先輩教員や先輩学生による発表や協議、演習を取り入れた「教職・学校現場を知る」等には高い数値が示された。興味関心の高さや自らの経験等との関わりが理解を深めたと考えられる。

「②自らの授業への取り組み、意欲」

最高値3.71（演習を取り入れた「教職・学校現場を知る」）最低値3.49（オリエンテーション）

演習を取り入れた「教職・学校現場を知る」、教職座談会と前後のグループ活動、先輩教員や先輩学生による発表や協議が高く、参加型授業や班活動での参加実感が意欲を高めたと考えられる。

「③今後に向けた課題意識」

最高値3.89（現職教員を招いた教職座談会）最低値3.42（オリエンテーション）

教職座談会、先輩教員や教育実習に関する先輩学生の発表や協議の回で数値が高く、興味関心、期待や不安等が課題意識や危機感を高めたと考えられる。

学生の自己評価やその結果は、教員がそれを授業評価の指標としてとらえ、内容の理解度、関心意欲や志向性の面からの理解することにより、授業内容、方法や形態等の工夫改善に活用できる。

(2) 質問事項や意見、感想等を紙・電子媒体でフィードバックし、学生の学びを価値づける

「自己評価・学習整理カード」に記された質問事項、意見や感想等「学生の生の声」は、教員の指導の内容、真意と学生の受け止めのギャップを埋めるため、またそれらを生かして補充的・発展的指導を行うための貴重な材であり、効果的に活用すべきである。

「教職概論」では、質問事項、意見や感想等の中から、再度押さえない内容や学生全体で共有させるべき情報のピックアップや価値付けを行い「質問事項について」として紙媒体でフィードバックしている。（図5）

また、本学部ウェブページ上で「ちゃぶ台方式による教職研修部」が開設している「e-ちゃぶ」に「教職

図4「自己評価・学習整理カード」

図5「質問事項について」

概論支援」のコーナーを設け、毎回の「質問事項について」を公開している。(図6) 学生、教員や幅広い教育関係者が学生の学びや情報を共有し、意見等を交換しながら学びを充実深化させている。

(3) 学生の反応、感想等

学生からは、疑問の解決、補充説明、教員の考えや思い等の理解に加えて、疑問や意見を受け止め取り上げて貰えた喜び、同じ疑問や意見を持つ学生の存在を知った時の喜び、自らの理解や意識に対する肯定的コメントに安心感や教員の学生に対する姿勢を感じた等の反応があり、学生の振り返りや意見、感想等を授業改善につなぐことができると考えている。



図6「学部・ちやぶ台ウェブページ画面」

2-4 外部人材を積極的に活用し、具体的で臨場感のあるステージで授業を展開する

→ 学生は：課題を自分のものとしてとらえ、学習の方向や解決を具体的にイメージできる

学生が、「教職概論」のねらいや到達目標に近づくには、教職や子どもたちの魅力、教育の重要性等を具体的、実感的に理解し、自分のこととしてとらえる必要がある。学習指導、生徒指導をはじめとした様々な指導や活動、学校の管理運営や学校と家庭、地域社会の連携等の様子を、具体的な姿で、生き生きとした教師の働きぶりとともに感じ、心から教職に魅力とあこがれを持つ必要がある。そのためには、附属学校園、公立学校や教育委員会等との連携を強め、現職教員や教育関係者を積極的に活用することが期待される。

また、在学中の教職キャリア形成に向けた学習や活動の在り方、採用後の若年教員としての嬉々たる成長について、具体的なモデルやイメージを描きながら理解し、自分自身の姿を重ねながら、希望とやる気を持って取り組む必要がある。そのためには、教育実習や教職ボランティア等幅広い教職体験活動への参加経験を有する上級生や本学部OB・OG等を積極的に活用することが期待される。

「教職概論」では、山口県教育委員会、各市町教育委員会や附属学校園等との連携を図り、積極的に外部人材の活用を進めている。

(1) 附属学校園・公立学校教員等を活用した「教職座談会」の取り組み

6月の「教職座談会」では、附属学校園教員と公立学校教員11人の現職教員を指導者として招聘し、学生との質疑応答、学生が事前に設定した課題による実践報告、協議、意見交換等を行った。

11班編制(各班10~12人)、各班に1人の現職教員、1時間の「教職座談会」を2回実施、というスタイルで行った。(図7)

学生からは日頃不安や疑問に思っていることが出され、いじめや不登校、体罰と懲戒、通常学級における特別支援教育、保護者対応から教員服務、福利厚生まで多彩な話題で話し合いが行われた。現職教員からは、教職の魅力、やりがい、子どものすばらしさと教員として関わることに対する喜びがいきいきと語られ、教職、子どもや教育等について具体的なイメージを持ってとらえることができた。

また、「教職座談会」や事後「発表会」の企画、準備や運営等を学生の班別活動中心に行った。このことは、社会人(教員)としてのマナー、接遇を身につけることや、企画運営、準備や役割分担、チームワークの在り方等を考える貴重な経験になった。(図8)

(2) 先輩学生を活用した「先輩学生と語る会」の取り組み

7月には2回にわたり「先輩学生と語る会」を行った。第12時は教育実習経験学生が自らの教育実習を振り返り、教育実習の意義、期間、場所、内容、成果、課題や後輩学生に対するアドバイス等を行った後、協議や意見交換を行った。学生からは、教育実習の詳細、学習指導案の



図7「教職座談会の様子」



図8「班別活動の様子」

作成や教材研究の仕方等教育実習までに身につけておくべきことや教育実習中の生活等の質問や意見が飛び交い、先輩後輩による温かい異学年交流が展開された。(図9)

第13時は、本学部の教員養成プログラムである「ちゃぶ台プログラム」等の教職ボランティア参加学生が、在学中に取り組める教職体験活動の紹介、活動での学び、成果と課題や後輩学生へのアドバイス等を行った。保育ボランティア、フレンドシップ、学校チューター、学力向上、林間学校、コーホートの6プログラム参加学生によるプレゼンテーションや質疑応答、意見交換等を行った。身近な先輩学生から直接、活動や体験の魅力や厳しさを聞くことができ大変効果的であった。同時に先輩学生にとっても貴重な振り返り、整理と発表体験の機会となった。(図10)

(3) 卒業生(本学部OB、経験3年目教員)を活用した「先輩と教職を語る会」の取り組み

第14時には、本学部OBで教職経験3年目の現職教員を講師に招聘し「先輩と教職を語る会」を行った。採用後の教職キャリア、学級担任、学年や校務分掌にかかる業務、保護者や地域とのつながり等の経験を話した後、子どもや教職の魅力、教員として教育に携われる喜び等を具体的にいきいきとした表情で報告してくれた。

また、自身の学生生活を振り返り、学生時代にこそできること、やっておきたい事柄等について、採用後の業務との関わりをふまえて説明し、学生も真剣に聞き入った。

本学部OBというつながりが親近感を生み、自分自身の将来像を描きながら学んでいたようであった。(図11)

(4) 学生の反応、感想等

日々、子どもと関わり教育実践を積み重ねている現職教員や、身近な存在である先輩学生が、自らの夢や希望を語り、教職経験、教職体験に対する思いや具体を発表し、成功・失敗体験等を開示し、自分たちへの期待を寄せてくれることは、学生の授業や教職キャリア形成に向けた取り組みに好影響を与えている。

「現場の先生方の生々しいお話から、現在の学校や教育現場の厳しさ、難しさを感じた。しかし、それを超えるやりがいや喜びがあり、子どもとともに成長できる魅力があると嬉しそうに言われ、なにか温かくなった。大変なことも分かったが、それでもなってみようかと思った。(教職座談会を終えて)」

「教員になった途端に経験のある先生方と同じ先生という立場になるというお話が怖かった。学生の中に身につけておくべきことも教えて貰ったが、教員というより社会人、大人としてどうあるかが大切なのだと感じた。今日の座談会は大変有意義だった。(教職座談会を終えて)」

「教育実習はまだまだ先のことで何も知らなかったが、具体的に説明して貰い少し分かってきた。しかし、それ以上に、上級生は話すのが上手い。自分もあのように話せるようになるのか不安になった。(先輩：教育実習経験者と語る会を終えて)」

「元気のいい先輩、いきいきと笑顔で話される先輩、声の大きい迫力ある先輩が多いと思う。何事にもチャレンジする、良いと思うことは即やるという人が多い感じがして、そういう人が教員には向いているんだろうと思った。自分自身を変えていく気持ちが必要と感じる。(先輩：ボランティア経験者と語る会を終えて)」

「教職1・2年目の苦勞を聞いて、やはり教員は大変で力が要ると思った。しかし、それを乗り越えた先にあの喜び、表情や笑顔があるんだろうと思う。乗り越えられるもの、力やその源はなんだろうか。自分自身で考えてみたいと思う。(先輩と教職を語る会を終えて)」

「〇〇先生の笑顔、子どもたちの表情が本当に素敵だと思った。子どもの可愛さ、純粹さ、それに関わる先生の楽しさや教職のすばらしさを感じた。自分の学科の先輩でもあって嬉しかった。(先輩と教職を語る会を終えて)」



図9「教育実習経験者と語る会」



図10「ボランティア経験者と語る会」



図11「先輩と教職を語る会」

おわりに

「教職概論」における授業改善や学部における教職指導との結びつきの実際を整理してきた。校種に限らず、授業づくりや学習指導において教員の意図（目線）が貫かれるには、教員の側に学生の目線（おかれた状況、認知や判断のスタイル、関心等）の理解、それに応じた手立てが必要であり、その創意工夫こそ授業改善となる。加えて、単一授業での授業改善を他授業につなぎ、広げ、学部における諸指導に効果的に機能させることが重要である。そのためにもチーム制を敷いている「教職概論」から更なる授業改善を行いたい。

教職や教育現場を取り巻く状況、方向や課題等を自分のものとして感じられる授業、教育活動や諸指導を具体的に理解しその奥にある教師や関係者の愛情や思いを味わえる授業、教師や教育関係者としての生き方、生き様や自分のなすべきことを問い続ける姿勢を育てていける授業を求め、今後も授業改善に取り組む所存である。

引用・参考文献

- 1) 塚本栄一：授業改善を改善せよ～学習者レスポンス分析の理論と展望～，ジャストシステム，2006.
- 2) 霜川他：「教育学部入学生の教職キャリアに対する意識の違いについて」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第31号，P23～P35，2011. 3.
山口大学教育学部「ちゃぶ台」方式による協働型教職研修計画最終報告書」2007. 3.
山口大学教育学部「平成22年度『ちゃぶ台方式』教職研修部事業報告書」2011. 3.